



ダイトウボウ

山内一裕 社長

やまうち・かずひろ 大阪市立大法卒。1979年三井信託銀行(現三井住友信託銀行)入社。新宿西口支店長などを経て、2009年6月に経営企画部長として大東紡織(現ダイトウボウ)に入社。常務、専務を経て、15年6月から現職。大阪府出身。59歳。

改革ヘルスケア中心に

インタビュー 最前線

日本の羊毛紡織の先駆けで、今年創業120年を迎えた老舗企業「ダイトウボウ」(旧大東紡織、東京都中央区)。長年祖業の繊維・アパレル事業中心の経営をしてきたが、安価な海外製品との競争激化などで事業環境が悪化する中、祖業を大幅に縮小し、商業施設事業、快眠をサポートする寝具販売などのヘルスケア事業中心の経営への転換という改革に踏み切った。山内一裕社長(59)に、その思いを聞いた。【浜中慎哉】

——今年で創業120年の歴史を教えてください。

◆明治時代の1889年、日本の羊毛紡織会社を創設して創業120年を迎えました。創業は、当時輸入品が主だったモスリン(綿や羊毛などの単糸で平織りした薄地の織物)の国内製造・販売を始めました。1960年代には、当時としては珍しい海外ブランドの紳士服製造・販売というアパレル事業をスタートしました。90年代には、事業多角化の一環として本格的に商業施設事業に乗り出し、2014年には、30年以上の歴史がある布団の

◆今年で創業120年の歴史を教えてください。

◆明治時代の1889年、日本の羊毛紡織会社を創設して創業120年を迎えました。創業は、当時輸入品が主だったモスリン(綿や羊毛などの単糸で平織りした薄地の織物)の国内製造・販売を始めました。1960年代には、当時としては珍しい海外ブランドの紳士服製造・販売というアパレル事業をスタートしました。90年代には、事業多角化の一環として本格的に商業施設事業に乗り出し、2014年には、30年以上の歴史がある布団の

◆「祖業である繊維・アパレル事業の縮小は、重い決断だったのでは？」

◆「確かに悩みましたが、今手を打たないと会社の将来はないと覚悟を決めました。OBからは「祖業改革を、よくやってください」と言葉をいただきました。縮小はしましたが、官公庁向けの制服製造・販売事業など守るべき事業は今後も守っていくつもりです。

◆「9月に会社名を「大東紡織」から「ダイトウボウ」に変更されたのも改革の一環ですか？」

◆「はい。これまでの繊維・アパレル事業中心の会社から、商業施設事業やヘルスケア事業中心の会社への業態拡大するつもりです。

◆「今後の経営方針を聞かせてください。」

◆「商業施設事業は、静岡県清水町の三島工場跡地にある複合商業施設「サントムーン柿田川」が好調で、将来的にも安定的な収益が期待できると考えています。その収束を、高齢化で需要拡大が予想されるヘルスケア事業への投資に回し、事業を